

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	神学部
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 神学部の理念・目的に基づいて、教員組織の編成方針を策定する。	→教員組織編成方針の策定(2013年度までに)	C	C	C	B	A
2. 教員組織を検証する制度を整備する。	→既存の人事委員会における検証および教授会に対する報告書の作成(2013年度より)	C	C	C	B	B
3. ファカルティ・デベロップメント(FD)活動を通じて教員の資質向上を図る。	→学部の授業改善報告を取り入れたFD研修会の実施(年2回)。	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教員採用・任用等における教員人事委員会(学部)を経て教授会において審議し、2012年度に5項目から成る「教員組織編成方針」を定め、2013年度から運用を開始、学部WEBサイトにて公開している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 方針を定めて運用を開始したところであり、まだ評価をする時期にはないが、以降の採用人事などにおいてはこの方針に基づいて計画・実施する予定である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 方針を定めて運用を開始したところであり、伸長策・改善策についてはまだ議論の時期にない。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか方針を定めて運用を開始したところであり、人事委員会(学部)において組織を検証する時期にはなく、制度の整備もできていない。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	
		理念・目的、専門領域等を検証していく過程において材料となる議論は始まっており、これから検証を実施し、教授会において報告していく。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	
		教員編制方針を定めて運用を開始したところであり、検証を踏まえた伸長策・改善策についてはまだ議論の時期にない。	☆
		その他	
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできた学部のFD活動としては、副学部長(教務担当)が中心となり、毎年6月と11月にFD研修会(学部)を実施し、授業改善のための研修と議論の場としている。また2013年度からFD委員会(学部)を組織し、FD活動について組織的に考える場を設けている。また新年度を前に年1回、非常勤講師を対象とするFD研修会(学部)を開催し、学部の取り組みを説明するとともに課題の共有を図っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	
		FD委員会(学部)で議論となった課題をカリキュラム研究委員会(学部)や教授会に報告し、全体で懇談されるなど、学部内で有機的なFDを展開することができている。また、非常勤講師対象のFD研修会(学部)については、学部の取り組みを説明する、あるいは授業運営に係る非常勤講師からの問題提起を共有するなど、FDの成果は期待された一定の水準であると認識している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	
		FDのさらなる実質化へ向けて、今後はFD研修会(学部)の実施だけでなく、授業の相互見学など新たな施策を検討する。	☆
		その他	
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【神学部】		単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	専任教員1人あたりの学生数 (ST比)	人	13.6	12.0	13.3	11.6	10.8	学部	
指標2	必修科目および選択必修科目に対する専任比率	専門教育	%	100.0	96.8	96.9	94.0	88.6	学部、センター、研究所
		教養教育	%	46.9	38.9	43.8	41.2	38.1	
指標3	教員組織における女性教員の比率	%	18.2	18.2	20.0	27.3	23.1	学部、センター、研究所	
指標4	本学出身の専任教員の構成比率	%	70.0	63.6	60.0	54.5	46.2	学部、センター、研究所	
指標5	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	16.2	14.0	15.2	15.8	13.9	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	15.9	16.4	12.3	9.8	11.7	
		講師	時間	15.5	13.5	—	—	—	
		助教	時間	15.3	—	14.0	10.0	13.0	